

天敵製剤ミヤコカブリダニを用いたナス，パプリカのハダニ類防除

農業・園芸総合研究所

1 取り上げた理由

ナスおよびパプリカにおいて，ハダニ類に対する天敵製剤ミヤコカブリダニの有効性を確認したのでその利用法を参考資料とする。

2 参考資料

- 1) 夏秋雨よけ栽培のナスおよび半促成栽培のパプリカにおいて，ハダニ類（ナミハダニおよびカンザワハダニ）の防除には天敵製剤ミヤコカブリダニが有効である（図 - 1，2，3）。
 - a 放飼方法：ミヤコカブリダニが入った容器を放飼直前にゆっくり回転させて均一に攪拌した後，緩衝材のおがくずごと葉上に落とす。
 - b 放飼時期：圃場でハダニ類が見え始めた発生のごく初期とする。
 - c 放飼量：10a当たり500ml（2，000頭，天敵製剤1本分）を1週間間隔で3回程度放飼する。
- 2) ミヤコカブリダニによるハダニ類の密度抑制効果は，放飼2～3週間後から顕著になる。
- 3) 放飼2～3週間後のハダニの発生箇所にもミヤコカブリダニが見られない場合は追加放飼を行う。

3 利活用の留意点

- 1) ナスおよびパプリカに使用できるミヤコカブリダニ製剤は「スパイカル」である。（「スパイカル」は「野菜類（施設栽培）」として登録）。
- 2) 天敵製剤は入手後直ちに放飼する。
- 3) 天敵放飼後は天敵に影響のある薬剤は散布しない。また，天敵放飼前に天敵に影響のある薬剤を散布した場合，残効による影響期間を経過した後に放飼する。
- 4) 1回放飼でも十分な効果が認められる場合もあるため，追加放飼はハダニ類の発生状況を観察し，必要に応じて行う。
- 5) 本天敵製剤は500mlポリエチレン瓶1本に成虫2，000頭含有，価格は1本6，000円程度である。
- 6) 本製剤は新JAS法に適合し，農薬散布回数にカウントされないため，有機栽培・特別栽培農産物でも使用できる。

（問い合わせ先：農業・園芸総合研究所園芸環境部 電話 022-383-8123）

4 背景となった主要な試験研究

1) 研究課題及び研究期間 園芸作物害虫防除における有用天敵類の検索と活用技術の開発
平成16年～20年

2) 参考データ

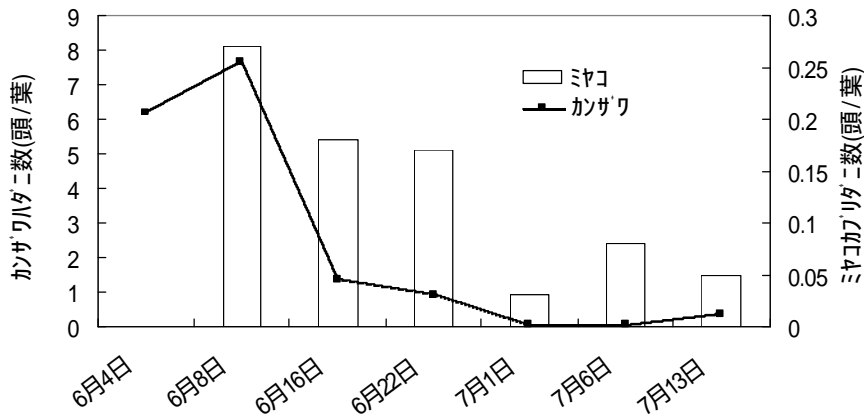


図 - 1 ナス（土耕栽培）におけるかざりとミヤコガリタの発生推移（2004年）
（定植：5月18日，放飼月日：6月4日，放飼量：2頭/m²）

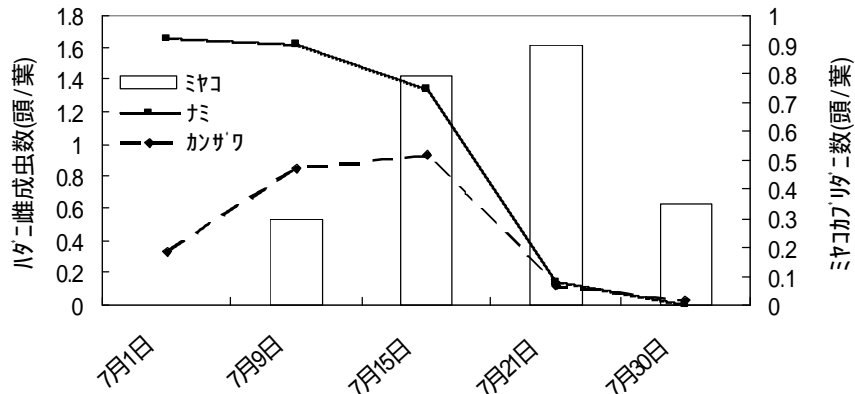


図 - 2 パプリカ（養液栽培）におけるハダニ類とミヤコガリタの発生推移（2004年）
（定植：3月下旬，放飼月日：7月1日，放飼量：12頭/m²）

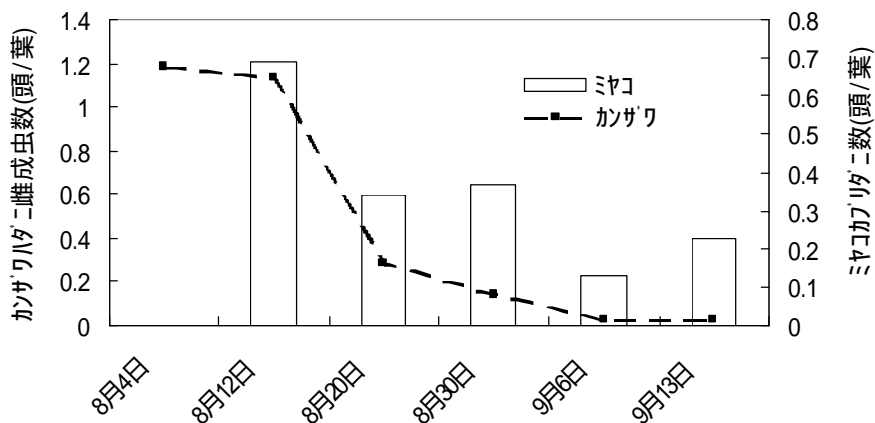


図 - 3 パプリカ（土耕栽培）におけるかざりとミヤコガリタの発生推移（2004年）
（定植：3月下旬，放飼月日：8月6日，放飼量：6頭/m²）

3) 発表論文等
なし